

ねらい

○子どもの成長過程において、子ども同士のトラブルは避けて通れません。保護者の適切な対応が不可欠だとはわかっていても、その「適切」はなかなか難しいものです。参加者同士が交流する中で、子ども同士のトラブルに遭遇したときの対応の工夫をもち帰ってまいりましょう。

時間	内 容	主 な 活 動	留 意 点
例： 60分 00:10	はじめのこ とば 3つの約束 確認 アイスブレ イク 	「みなさん、こんにちは。ご多用のところ 参加いただきありがとうございます。今日 は、“子ども同士のトラブル”につい て、一緒に考えましょう。司会の〇〇で す。よろしく願います。」 「この会は、ともに楽しく学び合い、みな さんで作り上げていくものです。誰もが 『参加してよかった。』と思える会にする ために、協力していただきたい3つの約 束があります。」 ① 参加 「積極的に話し合いに参加しま しょう。全員が参加できるように、協 力をお願いします。」 ② 尊重 「お互いの意見や感じ方を尊重 しましょう。他の参加者の意見を否定 したり、自分の考えを押し付けたりし ないようにしましょう。話したくない ことは、パスしてもかまいません。」 ③ 守秘 「子育ての交流ですから、個人 情報に関わる内容も出てきます。同じ 時間を共有する者同士の信頼関係のう えで行われる交流です。決して口外し ないようにしましょう。」 「それでは、みなさん、私と一緒に心と体 をほぐしましょう。」 「少し緊張していらっしゃるようですの で、一緒にリラックスしましょう。」 全員パス回し 「これから紙で作ったボールを回します。自 分のところに来たら、名前を言って別の方 に回してください。隣の人には回せませ ん。」	◇笑顔で親しみやすい言動に努 めましょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">小道具として「お茶」やちょっ とした「お菓子」があるとやわ らかい雰囲気を演出 し、話も弾みやす くなります。 </div> ◇会を成功させるために、学習 を始める前に参加者全員で 「3つの約束」を確認しまし ょう。 ◇一人が話し過ぎないように、 時間配分を考えながら、全員 に話す機会を回すようにしま しょう。 ◇「相手の目を見てうなずきな がら聞くとか、相槌を打ちな がら聞くなどすると、話す人 も嬉しいですね。」と具体的 な聞き方を伝えると分かりや すいでしょう。 ◇子育て中の親として、家族に 関わることも話題になりますが、 自由に話してもらうため にも、信頼関係が大切である ことを理解してもらいましょ う。 ◇アイスブレイクとは、参加者 の不安や緊張を氷にたとえ、 その氷（不安や緊張）を溶か すという意味をもった活動で す。 ◇15ページ「7 アイスブレ イクに活用できる簡単なゲー ム」⑥参照。
00:40	ワークショ ップ	「それでは、緊張もほぐれたところで、お 配りしたプリントの『こんなことあり ませんか』をそれぞれお読みください。そ して、ゆうくんのお母さんだったら、ど うするかを簡単にメモしてください。」	◇『こんなことありませんか』 については、詳細な説明はせ ずに、読んでいただくとい いましょう。

	<p>※時間があれば、<ワーク 2>について、次ページの方法もあります。</p>	<p>グループディスカッション <ワーク 1> 「みなさん、ゆうくんのお母さんだったらどのように対応するかを交流しましょう。」</p> <p>・まず女の子の確認と母親への謝罪。そして、ゆうくんに何がいけなかったのかを尋ね、考えさせる。 など</p> <p><ワーク 2> 「それぞれいろいろな方向から考えて、対応の仕方を出してくださいました。この時期の子どもにはトラブルはつきものですね。では、実際にみなさんのご家庭で起きたトラブルと、そのときの対応で、うまくいったことや困ったこと、相手の保護者の対応で学んだことなどを交流しましょう。」</p> <p>・園で友達とトラブルがあり、先生が指導してくださった。双方に非があったのだが、一方の子どもは相手の非のみを親に話したので、その親からもう一方の親に抗議の電話があった。 ・遊びでのトラブルがあったが、まず自分から相手の子や親にわが子と一緒にあやまった。すると相手もこちらも悪かったとあやまってくれた。 など</p>	<p>◇ゆうくんのお母さんの対応として「相手の子どもに対して」「ゆうくんに対して」「相手の子の親に対して」が考えられます。意見が、散ってしまいそうなら、「ゆうくんに対して」に絞ってもよいですね。</p> <p>◇自由に家庭の様子を話せるように、進行役の方の困っていることや失敗談を話すとういでしょう。</p> <p>◇グループごとに交流する際、「自分にもできそう。」「よい方法だなあ。」などと思った意見は、ワークシートの「いいね!」の欄にメモを取るとよいことを、事前に伝えておきましょう。</p> <p>◇「その方法いいですね。」「そんなやり方もあったのですね。」などとほめる声かけをしたり、「わかります」「そうですね」などと、気持ちに寄り添う声かけをしたりするとよいですね。</p>
<p>00:10</p>	<p>ふりかえり</p> <p>おわりのことば</p>	<p>「私も子ども同士のトラブルがあったとき、相手のお母さんが子どもを連れて、涙ながらにお詫びに来てくださったことがありました。子どもに『自分のためにお母さんが頭を下げている』ということ、姿で見せることは大切だと思いました。」</p> <p>「みなさん、今日参加されていかがでしたか。毎日、お子さんを目の前にして奮闘していらっしゃる皆様方にとって、少しでも気持ちが軽くなったり、何かヒントを得たりしていただけたならうれしいです。お話を伺っていて、本当にみなさんよくやっていたらいいなあと思いました。これからも、お困りのことがあれば、一人で悩まずにこのような機会を活用し、情報交換してくださいね。」</p>	<p>◇出された意見をまとめたり、結論を出したりする必要はありません。自分自身、こんなヒントをもらったというように、同じ立場で話すとういでしょう。</p> <p>◇資料を配布して、読んで紹介してもよいですね。</p> <p>◇最後は、参加者の日頃のがんばりを認めることのみとし、指示やアドバイスをすることは避けましょう。</p>

<p>時間がもっと取れるなら、こんな方法もあります</p>		
<p>ワークシ ョ ップ</p>	<p><ワーク 2> 「それぞれいろいろな方向から考えて、対応の仕方を出してくださいました。この時期の子どもにはトラブルはつきものですね。では、実際にみなさんのご家庭で起きたトラブルと、そのときの対応で、うまくいったことや失敗したこと、相手の保護者の対応で学んだことなどを出していただきます。」 「付箋を用意しましたので、1枚に1つずつ書き出してみてください。その際、うまくいったことは赤色に、失敗したことは青色に、学んだことは黄色に書いてください。今、思いついたものでもかまいませんよ。」 「それでは、画用紙に色分けしながら貼ってみましょう。そして、お互いの実践を交流しましょう。」</p>	<p>◇P10「6 取組を活発にする手法あれこれ」の③「ブレインストーミング」参照。 ◇3色の付箋、画用紙を準備する。 ・うまくいったこと…赤色 ・失敗したこと…青色 ・学んだこと…黄色 ◇「その方法いいですね。」「そんなやり方もあったのですね。」などとほめる声かけをしたり、「わかります」「そうですね」などと、気持ちに寄り添う声かけをしたりすると書き出す枚数が増えてきます。</p>
<p>いくつかのグループがあれば、発表の時間を設けましょう</p>		
	<p>「さあ、それぞれのグループごとにどんな工夫や失敗が出されたか、発表してもらいましょう。」</p>	<p>◇付箋を貼った画用紙を示しながら説明してもらおうとよいでしょう。全員役割分担をして発表するというのも、グループの連帯感が強まります。</p>